



## 釧路湿原北斗木道

約2万haにおよぶ釧路湿原は、実に日本の湿原の約6割を占めており、その湿原全体をヨシが支配し、散在するハンノキ林がこの景観に彩りを与えています。訪れた人々は、この景観に、北国の原風景を思いおこし、タンチョウなどの野生の息づかいに感動し、悠久のロマンにひたるのです。

大自然の息吹を直接感じることでできる北斗木道は、「谷地坊主」をモチーフとする釧路市湿原展望台を起点にぐるっと一周できるようになっており、木道の途中にはサテライト展望台をはじめとする休憩広場や動植物などの解説板が随所に設置されて、広大な景観を楽しむとともに湿原について学びながら散策することができます。

## 釧路湿原を学ぶ

**A: 釧路市湿原展望台**

**B: 史跡北斗遺跡展示館**

**C: 環境省釧路湿原野生生物保護センター**

**交通**  
阿寒バス つるい保養センター行・新幌呂行／湿原展望台下車

**問い合わせ先**

- ・釧路市湿原展望台……………0154(56)2424  
(案内:有料 開館 5~10月 8:30~18:00  
11~4月 9:00~17:00)  
休館日 12月31日~1月3日)
- ・環境省釧路湿原野生生物保護センター……………0154(56)2345  
(案内:無料 開館 10:00~17:00  
休館日 冬期(11月1日~4月29日)毎週土・日・祝日・年末年始)
- ・史跡北斗遺跡展示館……………0154(56)2677  
(案内:無料 開館 10:00~16:00  
休館日 月曜日、12月1日~3月31日)

**野鳥(主に冬)**

- オオワシ
- オジロワシ

**アオサギのコロニー**

サテライト展望台より眼下に広がるハンノキ林の中にはアオサギの巣が数百個ほどあります。アオサギは3月頃渡ってきて、4月中旬に3~4個の卵を産み、5月中旬にはヒナが誕生します。ヒナは7月には巣立ちとなります。

4~6月◆エンコウソウ、7月~8月◆ヒルガオ  
8~9月◆サワギキョウ、ナガボノシロワレモコソウ

**湧き水**

湿原は、豊かな水によってつくられる自然です。その水をささえているのが雨水や霧です。湿原のまわりにたくわえられた雨水は、無数の湧き水となって湿原に注いでいます。その水温は6~8度、1年を通じてほとんど変わりません。水量は、チョロ、チョロと流れるひとすじの湧き水で、1日に約10トンにもなります。北斗の台地からもおびただしい数の湧き水が湿原に流れこんでいます。

6~8月◆ヒオウギアヤメ

6~9月◆クシロハナシノブ

鶴居軌道跡探勝歩道

6~8月:シコタンキンボウゲ

6~9月◆ホザキシモツケ、7月~8月◆エゾカラマツ

5~7月◆コンロンソウ

6~8月◆ナンテンハギ  
7~8月◆ドクゼリ  
7~9月◆シオガマギク

5~8月◆エゾノレンリンソウ

**《5月全域》**  
◆エゾエンゴサク  
◆オオバナノエンレイソウ

◆イタヤカエデや  
◆シナノキの樹林が広がる

6~7月◆アヤメ

6~7月◆クサフジ

**野鳥(主に春~秋)**

- コヨシキリ ●ウグイス ●マキノセンニュウ
- シマアオジ ●オオジシギ ●エゾセンニュウ
- ベニマシコ ●ノビタキ ●ノゴマ ●アオジ
- センダイムシクイ ●オオジュリン
- シマセンニュウ

7~8月◆トモエソウ

**史跡北斗遺跡**

このあたりでは、先史時代の住居の跡と思われるくぼみが300個以上と貝塚などが確認されており、縄文・続縄文・擦文時代と長い間生活が営まれていた場所です。現在では、6戸の竪穴住居が復元され、当時の暮らしぶりをかきま見ることができます。

**ホザキシモツケ**  
(バラ科)

湿原を花々が一番彩る6月も終わり、寂しくなった夏から秋にかけ、まだあるよと、一斉に咲き出します。一つ一つの小花の長い雄しべが、全体を包みこみ、あざやかな色ではあるけれど、どこかやさしいイメージです。

※高さ1~2mの落葉樹。ハンノキ林やヨシ原などの湿地に生える。

このあたりでは、先史時代の住居の跡と思われるくぼみが300個以上と貝塚などが確認されており、縄文・続縄文・擦文時代と長い間生活が営まれていた場所です。現在では、6戸の竪穴住居が復元され、当時の暮らしぶりをかきま見ることができます。

0 100 200 300 400 500m

## ~湿原の花~



**クシロハナシノブ**  
(ハナシノブ科)

美しい淡紫色とそのたたずまいが高貴な色香を放ち、その魅力のとりこになりそう。この花には、湿原のいろいろな魅力を独り占めするような、そんな力がありそうです。

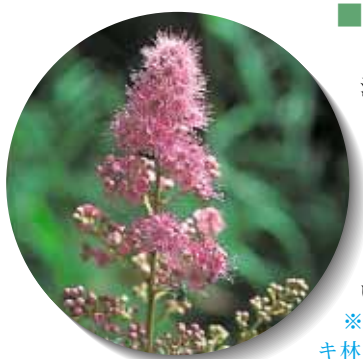
※高さ40~80cmの多年草。カラフトハナシノブの仲間、釧路地方の湿地に生えるものをいう。



**エンコウソウ**  
(キンボウゲ科)

初春、まだ冬を思わせる湿原の中で、陽光を浴びきらめく流れの縁に、その濃黄色の花は、ひときわあざやかに、ミズバショウとともにその春の到来をつげます。

※花の柄が長く、地面をはうように伸びる。多年草。



**ホザキシモツケ**  
(バラ科)

湿原を花々が一番彩る6月も終わり、寂しくなった夏から秋にかけ、まだあるよと、一斉に咲き出します。一つ一つの小花の長い雄しべが、全体を包みこみ、あざやかな色ではあるけれど、どこかやさしいイメージです。

※高さ1~2mの落葉樹。ハンノキ林やヨシ原などの湿地に生える。